

## サービス産業統計研究会（第11回）議事概要

1 日 時 平成23年6月30日（木）14:08～15:50

2 場 所 総務省第2庁舎6階特別会議室

3 出席者 委員：廣松座長、引頭委員、高田委員、宮川委員、阿部委員（内閣府）、平野委員（経済産業省）

事務局：西藤統計調査部長、水上調査企画課長、高見統計調査研究官、井上経済統計課長、木下経済統計課調査官、岩佐経済基本構造統計課長

### 4 議 題

- ・ 調査の見直しについて
- ・ 報告書について

### 5 議事概要

事務局から、資料に基づき、「サービス産業動向調査の調査計画（案）について（資料1）」、「調査票（案）（資料2）」及び「サービス産業統計研究会報告書（案）（資料3）」について説明。調査票（案）については今後の企業ヒアリング等による記入者負担の観点で踏まえた上で決定することとされた。報告書については大筋で合意が得られ、必要な修正は座長一任とされた。

#### \* 調査の見直しについて

- ・ 売上の変化の理由を把握することは難しく、今回の見直しでサービスの単価と需要の変動要因（前年同月と比較した状況）を調査するのはよいと思う。ただし、調査客体にとって価格は理解しやすいかと思うが、需要は何を指しているか誤解される恐れがあるので、あくまでも量のことであることを記入の手引きなどで丁寧に説明するとよい。
- ・ 単価と需要の変動要因の集計については、売上高でウェイトをつける方法の場合、売上高の上昇率と誤解される可能性があり解釈が難しい。更なる検討が必要。

#### \* 報告書について

- ・ 報告書は非常によく纏められている。サービス産業の把握に資する統計の完成形の一手前まで来ている。現在実施中の企業ヒアリングを通じて、統計の意義や使い勝手等の理解を深めるとよい。
- ・ 主として年次統計によって、サービス産業の構造面での把握がこれまで以上に進展し、経済成長・産業政策等への活用がより可能になるということを報告書で強調してもよいのではないか。
- ・ 民間企業にとっては、産業小分類での把握はマーケティングにとって大事であり、都道府県別の分析も可能となり、エリア戦略等に利用できるのをこれらのことを報告書に強調してもよい。また、月次についても今まで以上に精度が向上するので、この点でも民間にとって使い勝手の良いものになると思う。
- ・ 今回の見直しや付加価値研究によってサービス産業に関する統計が充実する。SNAについても月次統計の利用を図っていくと同時に、付加価値の研究についても協力したい。
- ・ 現在、行っている特定サービス動態統計調査との重複是正は見直し後も継続するべき。今後、調査の見直しに伴う特定サービス動態統計の調査票変更も必要になるので調整をよろしくお願ひしたい。